

平成28年度 施政方針

3月定例会における長野敏也村長の
施政方針（抜粋）を掲載します。

私の2期目の任期も、残すところ1年となりました。これからの1年は、これまで進めて参りました事業・政策の仕上げの年でもあり、今後の政策、取り組みについての方針を、述べさせていただきます。

わが国を取り巻く環境は、刻一刻と変化しており、世界経済の先行きが見えない状況が続いています。TPP交渉も、いよいよ国内批准に向けて最終局面に入りました。農業改革、農協改革など、わが国の農業を取り巻く環境も、これから大きく変化すると考えられます。

その一方で、わが国を訪れる外国人観光客が、昨年は1937万人となり、過去最高を大幅に更新し、インバウンド事業など観光の国際化の飛躍も期待されています。

国内において政府は、「地方創生

を提唱し、さらに「1億総活躍社会」を打ち出し、活力ある国づくりを進めようとしています。村においてもこの国の政策を充分に生かし、昨年策定した「地方創生総合戦略」に基づき、地域の実情に即した政策をしっかりと進めるべきだと考えています。

これまでの成果・災害対応など

村長就任以来これまでを振り返りますと、この7年間は、村におけるこれまでの課題や自然災害に、緊急かつ柔軟に対応して成果を収めてきました。

平成24年の九州北部豪雨災害は大変な被害でありましたが、関係各位の懸命な復旧工事により、2年後には完成を迎えることができました。そのように安堵していた矢先、平成26年11月、阿蘇中岳第1火口の噴火が始まり、断続的な降灰が本村の農業、観光業に被害をもたらしました。このような状況の中、村としては県と連携し、あるいは村単独で、火山灰除去のための動力噴霧器補助や「南阿蘇は元気キャンペーン・プレミアム付きの宿泊券発行」など、農家や観光業の方々への緊急支援事業を行い迅速に対応しました。

昨年は、村にとりまして節目の1年でした。まず、2月に合併10周年記念式典、12月には10周年記念事業として、「大相撲南阿蘇場所」を開催しました。まさに大盛況、満員御礼であり、多くの皆さまに喜んでいただき、10周年に華を添える興行であつたと思っています。

長引く経済の低迷により、企業の進出は困難な状況にあります。昨年4月には、あそ望の郷に「みなみあそコミュニティセンター」を建設し、その中にアウトドア・ブランド「モンベル」を誘致しました。あそ望の郷の「道の駅」登録との相乗効果で、一層の集客効果に期待しているところです。また、ハイコムウオーターの立地にも成功し、驚異的に販売を伸ばし、発展している。それぞれの会員組織や販売網を活用し、農産品の直接販売に繋げる条件整備を進めたいと考えています。

他にも4月には、長陽地区の3つの保育所を統合し、「ちようよう保育園」を開園、7月に「光ブロードバンド」を開通して、都市部との通信格差の解消を行いました。今後、企業誘致や教育、インバウンド事業に活用していきたいと考えています。また、医療費助成を高校生まで拡充すると共に、小中学校の給食費2

分の1助成を行い、子育て世代に配慮した施策を推進すると共に、統合中学校の建設事業や新庁舎建設も着手しました。このように、平成27年度は、明るい未来へ向けて大きく舵をきった一年であつたように思います。

新年度主要事業

平成28年度において、まずは南阿蘇中学校の開校です。多くの保護者の方々や生徒が、期待と不安をお持ちだと思いますが、統合中学校は子どもたちが切磋琢磨する中で、社会変化に柔軟に対応し、健やかでたくましく、優しく成長し、夢と希望を持って未来へ羽ばたける学校となるよう、今後ともできる限りの条件整備を進めたいと考えています。

また、新庁舎建設も議会の皆さま方のご理解、ご協力を得て、工事を進めています。安心して豊かに暮らせる南阿蘇村のシンボルとして、本年11月に開庁予定であり、今後とも安全第一に工事を進めていきたいと考えています。

また、行政改革を推進する上において、職員の意識改革と組織の見直しを行い行政サービスに配慮した、機能的な組織への再編を図りたいと

考えています。

村の基幹産業である農業については、TPPの大筋合意を受けて、政府においては「TPP関連政策大綱」に基づく事業に27年度補正予算として、3,122億円が措置されており、村においても国の予算を活用し「担い手確保・経営強化支援事業、国際競争力のある産地イノベーションの促進、水田の畑地化を促進し高収益作物への転換を支援する」などの施策を充実させます。このようにTPPをチャンスと捉え、新規就農者や担い手農業者の育成を進め、農業の法人化や組織化を進めて、農業の活性化に努めたいと考えています。

また、有機農業を広め、本村特産品の開発や6次産業化を推進して足腰の強い、高収益を得る農業を目指し支援したいと思っています。

観光については、白川水源の周辺整備を行い、観光客の安全で快適な利用により更なる集客を目指します。

また、立野ダムの早期完成やJR豊肥線の立野までの電化実現のため、阿蘇の玄関口である立野駅の周辺整備を進め、観光客の案内やおもてなしの充実を図り、阿蘇観光の出発点としての整備を進めるとともに、地域の活性化を図ります。

新たな取り組みとしては、阿蘇の

自然や文化を、サイクリングやトレッキングを通じて、楽しみながら旅をする「ジャパンエコトラック」、モンベルとの共同開催ですが、本村だけでなく阿蘇郡市町村との広域連携により取り組み、国内外へ情報発信して、観光客の増客を図り、通遊型観光から着地型観光を進め宿泊客の増客を図ります。

また、今後外国人観光客の増客が見込まれており、村においても誘客に力を入れるため、公共サイン、WiFi（ワイファイ）の整備と情報発信を進めたいと思います。

高齢者世帯などの交通弱者・買い物弱者と呼ばれる方々の生活の利便性を向上させるため、光ブロードバンド整備にあわせ、予約型乗合タクシーの実証実験を行います。さらに、空き家バンクの内容の充実を図り、若者世代の移住・定住を進めます。

住民福祉に関しては、昨年、児童生徒の医療費補助を18歳まで拡充しましたが、安心して産み育てる環境づくりのため、今後とも、ママサポート、ファミリーサポートなど、子育て支援サービスの充実を図ります。

安心して暮らしやすい村をつくるため、緊急車両が通行できない集落内の生活道路の拡幅整備、道路施設の老朽化対策を進めて利用者の安全

確保に努めます。防災対策として、河川底掘削や危険箇所を整備を継続して、災害に強いインフラ整備を進めます。

人権は、幸福な生活を営むために憲法でも保障された固有の権利であり、何人も侵すことはできません。人権侵害を未然に防ぐためにも、本年度も、シンポジウム・講演会などの啓発活動を通じ、人権意識の向上、「いじめや部落差別の撤廃」にしっかりと取り組み、明るい村づくりに努力します。

教育に関しては、統合中学校が4月に開校します。教育環境の充実を図るため、公立学校の学校編成基準に満たない新2学年において、本村で教員1名を採用し、3学級編成により、ゆとりのあるきめ細かな指導体制を確立します。また、英語教育支援員3名を採用し、英語力の指導、部活動の充実など、より充実した教育環境を整備して、楽しく希望にあふれた学校づくりを進めます。さらに昨年導入した給食費の半額助成についても、今後も継続して子育て世帯の負担軽減を進めたいと考えています。

この他にも光ブロードバンドの開通に伴い、ICTを活用した環境整備を進めるため、昨年、村内5つの

小学校に電子教科書、電子黒板を配備しました。統合中学校にも本年度導入して、ICTを活用した授業を本格的に開始します。

やはり、政策の推進は健全な財政の上に成り立つものです。消費的経費の削減を図りながら、健全財政を維持します。また、当初予算には盛り込んでおりませんが、今年度から合併特例債の基金積み立てを行いたいと考えています。

今後の課題

今後の課題としては、空き公共施設の活用、国保の医療給付費の増加による経常的な赤字対策、国保の広域化への対応、また、白水地区の小学校統合や、図書館の整備、日用品の買い物ができるスーパーなどの誘致、農業振興のための6次産業化に伴う加工施設の整備など、これから取り掛かるべき課題はまだあります。村民の幸せを念頭に置き、職員も一丸となって、一歩ずつ着実に歩みを進めてまいります。どうか、今後の議会の更なるご指導とご支援をお願い申し上げますとともに、村民の皆さま方のご協力も賜りますことをお願いし、平成28年度に向けての、施政方針といたします。